

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	35	実施計画番号	97
事務事業名	農畜産物等加工施設整備		
個別事業名	食産業元気創出支援事業補助金	事業開始年度	平成23年度
担当課名	農業政策課	事務の種類	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	本市は県内有数の農業生産地であるが、加工、販売への取り組みが弱く、産品への付加価値を高めることの必要性を認識している。		
事務事業の目的	本市で生産される安全・安心で良質な農畜産物を原料として、農商工連携を活用した加工品開発を進め、加工施設整備による地域の活性化と新たな雇用の確保を図る。		
実施状況	農産物等の加工振興のため加工施設整備、機械導入の事業に対して1,611万円(11事業者)の助成を実施した。		

## 【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	0	1	1
	活動日数(日)	0	60	60
	人件費(千円)	0	2,160	2,160
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)	0	0	0

## 【事業費の推移】

	22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)	0	16,110	10,000
うち一般財源	0	14,777	10,000
うち国県支出金		1,333	
うち地方債			
うちその他			

## 【指標】

活動指標	活動指標名①	食産業元気創出支援事業補助金				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
	施設整備、機械導入に対する補助金額	千円	0	16,110	10,000	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
	補助事業実施事業者数	事業者	0	11	10	
成果指標	成果指標名①	食料品製造業出荷額				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
	工業統計調査(経済産業省)より	億円	目標値	246	250	255
			実績値	271		
			達成度(%)	110%		
	成果指標名②					
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	

※平成23年度の成果実績値はH25/11に公表予定。

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	35
計画No	97

## 【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		新たな商品開発、製造拡大のためには事業者にとって機械施設は必要不可欠である。また、国の支援を受けるには法認定が必要である等ハードルが高く、県には同様の支援措置は無いため、事業者のニーズは高い。
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		予算額を上回る応募がある等、事業者の反応は良く、予算は有効に活用されている。成果指標としている平成23年度の統計値は未だ公表されていないが、支援事業者における事業活動(販売額、雇用)は概ね向上している。
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		個別事業である補助事業の実施にかかるコストは、補助要綱に基づき無駄なく実施されている。
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		事業は十和田産品の付加価値向上のための加工振興を目的として実施しており、受益に偏りはなく、要件を満たす個人、団体に広く活用されている。
			現在の適性	20 / 20	改善の余地 0 / 20	

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

現状のまま継続

### 方向性の理由

本市の弱点である農畜水産物の加工部門への助成を実施することにより、生産者の生産意欲と所得の向上を図ることができるため、事業を継続して実施する必要があると考える。

### 今後の具体的な取組み方策と狙う効果

農業生産者等自身の6次化に向けた取り組みを進める必要があるため、出来るだけ多くの一般生産者がこの事業を活用し、6次化事業者として確立することにより、地域の活性化と雇用の確保が図られるように努める。